

認知症の進行と主な症状の例

※症状の現れ方には個人差があり、必ずしもこのとおりの経過をたどるわけではありません。

家族や周囲が認知症を理解し、進行に合わせて上手に対応していくことが大切です。

認知症の進行

正 常 な
レ ベ ル

軽度認知障害
(MCI)

認知症

(代表的なアルツハイマー型認知症の進行例…右に行くほど時間が経過し進行)

5年前後で約半数が
認知症に

認知症疑い

認知症を有するが
日常生活は自立

誰かの見守りがあれば、
日常生活は自立

日常生活に手助け・
介護が必要

常に介護が必要

本人の様子

●もの忘れはあるが、
金銭管理や買い物、
書類作成などを含め
自立して生活できる



● 頭の中に霧がかかったようだ
● 約束が思い出せない
● 物事が覚えにくい
● やる気がでない
● 「物を盗まれた」などのトラブルが増える
● 不安が強い、怒りっぽい
● 買物や調理が上手でできなくなる
● 自分で服薬ができなくなる
● 忘れることは多いが日常生活は
自立している など

● 妄想、徘徊、興奮が多くなる
● 着替えや食事、トイレで排せつ
することがうまくいなくなる
● ついさっきのことも忘れる
● 時間や場所がわからない など



● 表情が乏しい
● 尿や便の失禁が増える
● 運動機能が低下して寝たきり
になり、意思疎通が難しい
● 日常生活全般にいつも介護が
必要
● 家族の顔や使いなれた道具が
わからない など

周囲の対応

◎本人から介護予防教室や地域行事の参加、ボランティアを行うなど、社会参加をしてもらうよう働きかけましょう。

◎本人から家庭内での役割を持ってもらい、継続できるようにしましょう。

◎いつもと違う、様子がおかしいと思ったら早めに相談しましょう。周囲の気づきが大事です。認知症カフェでも相談できます。

(日時と場所は、地域包括支援センターか保健福祉課高齢者支援係までお問い合わせください。)

◎今後の生活設計(介護、金銭管理、終末期のことなど)について考えてみましょう。

◎本人の気持ちをよく聞いてあげるなど、接し方の基本やコツを理解しましょう。周囲が適切に対応することにより、おだやかな経過をたどることも可能です。

◎ひとりで外に出てしまうようなら、見かけたら知らせてほしいと近所にも伝えておきましょう。庄内町徘徊(はいかい)高齢者事前登録事業を利用し、早期保護できるようにしておきましょう。

◎「かかりつけ医」や「担当ケアマネジャー」、「サービス事業所職員」に、早めに相談しましょう。

◎戸惑うような出来事が増え、介護が難しくなってきます。介護者が休息する時間も必要です。高齢者サービスや介護保険サービスを上手に利用しましょう。困ったことがあったら早めに相談しましょう。同じ立場の人の集まり(介護者交流会など)で話を聞いたり、自分の気持ちを話したりできる場を持つことも大切です。

◎日常生活でできないこと(食事・排せつ・清潔を保つなど)が増え、合併症を起こしやすくなることを理解しましょう。

◎どのような終末期を迎えるか、家族間で話し合っておきましょう。

【高齢者サービス】 介護予防教室、家事援助サービス、徘徊高齢者事前登録、配食サービス、権利擁護、介護者交流会、認知症カフェなど

【介護保険サービス】 通所介護、訪問介護、訪問看護、訪問入浴、短期入所、グループホーム など

●ポイント●本人の状況や変化の段階に合わせて、様々なサービスや協力機関があります。困っていることや不安に感じていることを「かかりつけ医」又は「地域包括支援センター」、介護認定を受けている方は「担当のケアマネジャー」に伝えて、適切なサービスや治療につなげましょう。